



第19回 日本体験学習研究会全国大会 大会報告

発行：第19回日本体験学習研究会全国大会運営委員会事務局

発行日：2018年8月1日

みんな
わたしが創る日体研

第19回日本体験学習研究会全国大会を終えて

昨年に引きつづき6月開催となった第19回全国大会は、6月23日・24日の両日にわたり行われました。今年は、参加者一人ひとりが本研究会の創り手であり担い手であるといった意識をもって参加していただきたいと思い、「わたしが創る日体研」というスローガンを掲げ、運営してきました。また、こうしたスローガンが広く行き渡り、周知の上で参加してくださることを願って、チラシ作成にも力を入れ、当日を迎えました。

大会開会に行われた運営委員会企画では、「オープニング・セッション：わたしが創る日体研」と題して、中村和彦さんに第1回から第18回までの日体研の歴史を概観するデータを紹介してもらいながら、日体研を一人ひとりの身近な学びの場としてとらえていきました。また後半には、オープン・スペース・テクノロジー（OST）を用いた対話のセッションを行いました。

「プロセスを学びたい」、「問いを考えたい」、「人が輝く」、「体験学習の学びをどう収束させるのか?」、「日体研参加者増への秘訣」、「対話のできる集団になるには」、「ラボラトリー体験学習の理解を広げるには」、「今日の野望を達成するぞ!!」など、実にさまざまな対話のテーマが投げかけられ、小グループに分かれとても有意義な時をもつことができました。まさに、一人ひとりにとって、わたしが創る場になったのではないのでしょうか。

その後、初日は、4つのエクササイズ・セッションと3つのレポート・セッション、そして楽しい懇親会が行われました。翌日も、4つのエクササイズ・セッションと3つのレポート・セッションが行われました。いずれのセッションも、20名ほどの参加者と共に充実した時を体験できたのではないのでしょうか。

2日目の最後の全体会は、南山大学人文学部心理人間学科の学部生有志により行われました。ねらいとして「日体研に来た目的を再確認する」「多様な体験をつなげて、日常にいかせるヒントを見つける」を掲げ、2日間の学びをサンドイッチの具材に見立てながら、体験したことや気づいたこと・学んだことを近くの人と分かち合い、日常に持ち帰るヒントを得るプログラムが展開されました。学部生のみならずには、参加者から大きな拍手がうまれるほどの充実したプログラムを提供していただきました。

参加者は80名ほどであり、100名を超えることはできませんでしたが、第19回大会を共に創り上げてくださった参加者のみなさま方に、そして運営委員のみなさま方に、また学部生のみなさまに感謝を致します。ありがとうございました。

(大会運営責任者:津村俊充)

オープニング・セッション

今大会のオープニング・セッション『わたしが創る日体研』は、初回からの日体研をふりかえり、スタートしました。その後、小グループで自分自身にとっての日体研の意味やよさをわかちあった後、休憩をはさみ、日体研への希望を語り合うフェイズに移りました。「日体研の参加者を増やすヒケツ！」のように、この研究会と密接に関連したものから、「良い問いとは？」「対話のできる集団になるには？」「人が輝くのはどのような時か？」「体験学習はハラスメントを救えるか？」などなど、とてもバラエティに富んだテーマを 12 名の方が挙げてくださり、メンバーはそれぞれの関心に合わせて集まり、対話をしていきました。じっくり少人数で語り合うグループ、いくつものグループを自由に行き来するメンバー、最初は別々のテーマだったのに合体するグループなど、とても興味深いプロセスの 1 時間を過ごし、最後は話し合いの結果を全体でわかちあいました。

ここで話し合われたことをもとに、早速動き出すメンバーもいてくださったおかげで、大会中の会場が楽しく彩られたり、Facebook の新しいコミュニティ『ラボラトリー体験学習』が生まれ、今も様々な情報交換が行われています。参加してくださったみなさまに心より感謝申し上げます。この思いを、20 回大会、そしてその先へつなげていきましょう！

(文責：中尾陽子)

全体会報告

大会最後の全体会は、日体研では初めての試みとして心理人間学科の学部生が企画と担当をしました。今回の全体会のねらいは、1 つ目は「日体研に来た目的を再確認する」2 つ目は「多様な体験を繋げて日常に活かせるヒントを見つける」という 2 項目を設けました。忘れがちな初めの一步を思い出し、そして 2 日間で体験したことを俯瞰し全体の流れで見ることで発見できるものがあるのでは、と考えこのようなねらいを設定しました。

まず 2 日間を丁寧にふりかえられるように、個人記入の時間をとりました。ここではサンドイッチのイラストを背景にしたふりかえりシートを用意しました。初めに日体研に参加した目的を確認し、次に 2 日間でどのようなことを体験したか、最後に思い出せた体験の中で自分自身の内側ではどのようなことが起きていたか、という 3 点を記入しました。長めに時間を確保したのでじっくりとふりかえられている人や、他の参加者と早くシェアしたくてうずうずしている人が見受けられました。記入した後、自由にペアを作り記入した 3 点についてシェアをしました。それまでの静けさとは変わり、この時間はどつとにぎやかになり、あれもこれもペアの人にシェアしたいという雰囲気は幾度も感じられました。シェアの後に 4 点目の項目として、自身の内側で起きていた事柄の理由・その共通点や特徴について個人記入を行いました。事前準備の段階で「この記入は少し難しいのでは？」と悩みましたが、実際にはスラスラ書けている人が多かった印象でした。先ほどのペアと別のペアを合体させ、4 人組でシェアしました。そして最後の 5 点目の個人記入として、今後の展望や試みについて考えてもらいました。5 項目を記入することでサンドイッチが完成しました。最後のシェアは前の 4 人組をさらに合体して 8 人組で行いました。全体会の最後に宣言の場として全員立ち上がり 30 秒ずつ順番にグループ内で発表していただきました。

今回、体験学習の初学者として初めて学部生が企画し、“自分たちの想い”、“参加者のニーズ”、そして“プログラム設計する上で守りたいポイント”の3つをどのように重ね合わせうまく折り合いをつけるかを悩み、直前まで意見を交わしました。その際に先生方や運営委員の方々に助言を頂き実施できるまでに至りました。このプロセスはまさに大会スローガンである『みんな（わたし）が創る日体研』であったと、この報告書を書いているときに気づきました。本当にありがとうございました。そして最後ではありますが何よりも今回、学部生が企画した全体会に参加し、暖かく見守りながら支えてくださった皆様方に心より感謝申し上げます。

(文責 和田喜心)

会計報告

【収支報告】2018年7月10日現在

大会		【支出の部】	
【収入の部】			
大会参加費	253,500	印刷費	95,768
広告協賛	20,000	通信費	15,849
その他	3,592	事務局費	183,488
計	¥ 277,092	大会運営費	132,089
		その他	59,400
		計	¥ 486,594

大会収支総計 -209,502

懇親会		【支出の部】	
【収入の部】			
懇親会参加費	163,500	懇親会費	224,786

懇親会収支総計 -61,286

全体の収支総計 ▲¥270,788

まだ本大会に関する会収入支出共に、全て完了していませんが、今回は大幅な赤字となる見込みです。原因としては2点大きなものが考えられます。1点は、参加者数の減少に伴う収入減です。懇親会参加者も予測より少なく、収支のバランスが取れませんでした。2点目は、事務局費の増加です。老朽化したPCを新しくしたこと、南山大学のwebシステム変更に伴いHPを大幅にリニューアルしたことにより、支出が大きくなりました。今回の赤字は、過去の黒字大会時の蓄えで補填できる範囲ではありますが、近年ずっと続いている参加者数の減少という問題を、よくよく検討していかなくてはいけないのだらうと考えています。皆様からも何かお気づきのことがあれば教えていただきたく、どうかよろしく願いいたします。

(文責：中尾陽子)

第 20 回大会に向けて

日本体験学習研究会全国大会も、次回で 20 歳になります。記念すべき大会にしたいと考えています。日程は、**2019 年 7 月 6 日（土）・7 日（日）**です。これまでご参加いただいた方はもちろんのこと、これからラボラトリー方式の体験学習を学び活用していこうとされているみなさま方にもお集まりいただき、これまでのふりかえりと、新しい一歩を歩み出すための大会にできればと考えています。

今からこの日程をスケジュールに入れていただき、来年はたくさんの方に南山大学に集まっていたいただければと思っています。南山大学での開催も、一区切りになるかもしれませんので、ぜひご参加ください。

(大会運営責任者：津村俊充)

【第 19 回日本体験学習研究会全国大会 運営委員会】

委員長：津村俊充

委員：池田満、鎌田美保、河合宗寛、鯖戸善弘、中尾陽子、中西まるか、中村和彦

服部剛典、横井れい、横井伶於、和田喜心 (五十音順)

(事務局) 水野菊代

共 催：南山大学人間関係研究センター

協 力：心理人間学科合同研究室スタッフ (真野佐知子・堀口久美・大仲ひろみ・光岡真里)

心理人間学科 学生スタッフ

【大会運営委員会事務局】

〒466-8673 名古屋市昭和区山里町 18 番地 南山大学人文学部心理人間学科 (池田研究室内)

TEL:052-832-3111(内線 3959) FAX:052-832-3217

E-mail: nittaiken@gmail.com

Web: <http://www.nittaiken.net/>